

利根川宣言 2007

カスリーン台風の災害から50年が経過した、1997年9月、1都5県の首長が集い「利根川サミット」を開催し、災害の教訓や、豊かな利根川の恵みを未来の世代に受け継いでいくため、[利根川宣言]が採択されました。

あれから10年が経過し、近年、「地球温暖化」による集中豪雨の多発や「少子高齢化」に伴う地域防災力の低下などが指摘される中、私たちは、少しでも洪水被害を減らす努力を続けていかなければなりません。

また、利根川は、首都圏に残された貴重な水と緑の空間であり、豊かな自然環境を保全・再生し、かつて、利根川により社会・文化が発展してきたことを思い起こし、流域が一体となって、新しい利根川とのかかわりについて考えていかなければなりません。

本日、カスリーン台風の災害から60年目に当たる節目の年にあたり、利根川流域の知事や関係者が一堂に会して利根川を巡る様々な課題や可能性、夢などについて語り合いました。

私たちは、利根川によって結ばれた運命共同体であり、上下流の人々が、お互いへの思いやりの気持ちを持ち、心を一つにして利根川の豊かな恵みを次世代に受け継いで行けるよう、1997年の[利根川宣言]を更に発展させて、次のとおり宣言いたします。

- 一 カスリーン台風の教訓を次世代に継承するとともに、今後の「地球温暖化」、「少子高齢化」などの新たな課題にも対応できる災害に強い社会づくりを推進します。
- 二 水源地域の山林を流域の人々で守るなど、利根川のもたらす水の恵みに感謝し、利根川を世代を超えて大切に守ります。
- 三 利根川の素晴らしい自然環境を保全・再生し、美しく清らかな利根川を次世代に残していきます。
- 四 利根川とともに生きてきた先人たちによる歴史と文化を尊び、人が憩い、集い、ふれあえる、地域に根ざした川づくりを推進します。
- 五 利根川で結ばれた地域のつながりを大切にし、上流と下流の更なる交流を深め、思いやりを持って、利根川流域が一体となった地域づくりを推進します。

平成19年11月23日

利根川サミット